

神戸学院大学 中期行動計画 実行計画(第4層) 2015年度達成度評価表 分野:大学運営

		評価	理由
中期計画	1 基本方針の策定と実行		
実行計画	(1) 中期行動計画の実行と検証を行う。	B	進捗管理を行い易くするよう、自己点検・評価マネジメントシステムの改良は実施しているが、中期行動計画そのものの各施策が具体的な達成目標を持っていないため、実質的な進捗管理はできていない。
	(2) 意思決定のプロセスの明確化を図る。	—	今年度の計画は無い。
	(3) 既存学部との整備と全学収容定員の再編を行い、新学部・新学科の設置を検討する。	A	編入学定員を含む収容定員の変更を文部科学省に届出た。このことにより適切な定員管理に寄与することが期待され、評価できる。
	(4) 有瀬キャンパス(KAC)とポートアイランドキャンパス(KPC)の効率的な利用を促進するため、学部移転を基本とした新学部・新学科を含めての学部再配置を行う。	—	今年度の計画は無い。
	(5) KPCへの本部機能移転とD号館・体育館建築を検討する。	—	今年度の計画は無い。
	(6) 中長期計画実行のための財政計画を策定する。	C	財政基本計画を策定する事に対し、2015年度も中長期計画をふまえた財政基本計画の検討に留まっている。
中期計画	2 内部質保証システムの構築と実施		
実行計画	(1) 大学認証評価も視野に入れつつ、大学独自の自己点検・評価を毎年行う。	B	本学独自の自己点検・評価を毎年行っており、継続的にPDCAサイクルを回している点においては評価できる。ただ、報告書作成だけが目的になっているように見受けられる。
	(2) 上記を達成するため、作業部会を含めた自己点検評価制度委員会の体制を再検討する。	C	2013年度以降は新体制で自己点検評価を行っている点は評価できるが、機能していない小委員会等もあるので見直しが必要である。
	(3) IRを用いて学内の情報の「見える化」を推進し、施策立案補助を行う。	B	2015年度からの新たに策定した実行計画である。IRの重要性を認識の上、適切な政策立案補助を行うことを期待する。
中期計画	3 効率的な財政運営		
実行計画	(1) 収入源の多様化を図り、帰属収入における学生生徒納付金以外の増額を目指す。	B	収入源の多様化を図ることは、今後の大学経営の死命を制する計画である。今後も継続的に実行することを期待する。
	(2) 予算編成のあり方を再検討し、支出およびその配分の効率化を図る。	D	予算編成については、大学、法人ガバナンスのあり方から再精査願いたい。財政支出の過半数超を占める人件費に関する計画は策定時から進捗が見られない。大学、法人全体として早急に取り組む必要がある。
中期計画	4 情報の集約・共有の促進		
実行計画	(1) 教職員間、教員間、職員間の情報共有の実態を検証し、その改善に向けた新たなシステムの導入を検討する。	D	情報交換会は継続して実行しているものの、ペーパーレス化については、2013年度から計画が進んでいない。なるべく予算が抑えられるよう検討し、計画を進めるべきである。
中期計画	5 戦略的広報活動の推進		
実行計画	(1) 募集活動全般を見直し、体系的な学生募集体制を構築し、志願者増を図る。	B	おおむね2015年度の年次目標を達成しており、様々な媒体による広報を行っている点は評価できる。これまでの媒体や方法による効果測定し、新たな計画に反映することが望まれる。
	(2) 大学のブランド力向上のために大学広報を推進する。	A	大学創立50周年をめざし、その準備となる年ではあるが、大学のイメージアップに繋がる広報展開を行い、その成果が顕れてきたことを評価する。
	(3) 本学に対する構成員の関心を高め、理解を促すために学内広報を推進する。	B	中期行動計画の内容とその進捗状況の公表がほぼ1年遅れとなっている。広報サイドの問題ではないものの、構成員の関心を高めることには逆作用ではないだろうか。一方ホームページやフェイスブック、Instagramを使つてのタイムリーな情報発信を行っていることは評価できる。
中期計画	6 効率的で機動的な組織への見直し		
実行計画	(1) 事務組織の現状を検証し、キャンパス間業務連携や役割の役割を見直す。	—	今年度の計画は無い。
	(2) 学部にも所属しない教員の任用制度の導入を検討する。	—	今年度の計画は無い。
中期計画	7 労働環境の整備		
実行計画	(1) よりよい就業環境の実現に取り組む。	D	昨年度に引き続きほとんどの計画が未実行のままである。なぜ、実行できないのか真の要因を探り当て、対応を図らないと、なんのための中長期計画が判らない。猛省が必要である。
	(2) 「期待される教職員像」に基づいた人材育成制度の確立に向け、全般的な検討を行う。	D	研修制度については一部進んではいる。年次達成度報告書の記載方法や小分けにした計画を統合するなどの検討が必要である。しかし、根本的な計画は停止したままなので、早急な対応が望まれる。
中期計画	8 教育後援会・同窓会との連携強化		
実行計画	(1) 保護者等からの大学への要望をより吸い上げるシステムを検討し、教育後援会との連携を深める。	B	実行計画では、「保護者等からの大学への要望をより吸い上げるシステムの検討」であり、そのシステムを通じて「教育後援会との連携を深める」ことである。中間点でもあるので、この両点の評価が望まれる。また、学内関係者にはどのように要望を伝え、共有化しているかの観点からの評価が必要である。
	(2) 課外活動、キャリア支援等において、在学生と卒業生の結びつきがより強化されるよう、同窓会との連携を深める。	A	同窓会との連携を深めるために、意見交換の場を設けたり、各種媒体を通じて情報発信を行っている。また、それらに対する検証も行っており、評価できる。

評価 S: 目標よりはるかに上回る、A: 目標をやや上回る、B: おおむね目標どおり、C: 目標をやや下回る、D: 目標をかなり下回る